

滋賀の地場産業

- 信楽陶器
- 甲賀・日野製薬
- 湖東麻織物
- 彦根バルブ
- 彦根仏壇
- 彦根ファンデーション
- 長浜縮緬
- 高島綿織物
- 高島扇骨

地場産業 産地 map

in shiga

滋賀県には9つの地場産業が産地を形成しています。地場産業から生み出される地場産品は、滋賀の雇用を支え、地域経済の中心的な役割を果たしています。

たかしま めん おりもの
高島綿織物



● 代表的な产品

綿クレープ・

厚織(ゴム資材・帆布・その他資材)

P14

たかしませんこつ 高島扇骨



● 代表的な产品

扇骨·扇子

P15

しがらき とう き
信楽陶器



● 代表的な产品

レンガタイル等建材類・庭園用品類・食卓用品類・花器類・植木鉢類

P7

こうかひのせいやく
甲賀・日野製薬



● 代表的な产品

医療用医薬品・
一般用医薬品・配置用家庭薬

P8





ながはまちりめん 長浜縮緬



● 代表的な产品

ちりめん・つむぎ

P13

ひこね 彦根バルブ



● 代表的な产品

水道用弁・産業用弁・
船用弁

P10

ひこね 彦根仏壇



● 代表的な产品

仏壇・仏具

P11

ひこね 彦根ファンデーション

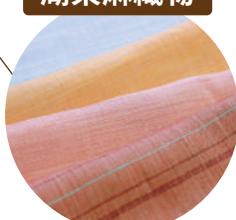


● 代表的な产品

ブラジャー・ガードル・ショーツ・
ボディースーツ・キャミソール

P12

ことうあさおりもの 湖東麻織物



● 代表的な产品

服地・不織布・芯地

P9

滋賀の地場産業

地場産業の成り立ち

滋賀県はかつて「近江国」と称され、古くから交通の要衝となり、常に人やもの、情報が行き交うエリアでした。さらに、琵琶湖とこれを取り囲む山々をはじめとする豊かな自然環境が独特の風土や文化を育み、その中から固有の原材料、生産の技術や方法などが培われてきました。やがて、地域に密着した産業や独自の產品が生まれ、継承された高い技術の集積が地場産業の産地へと発展。形成された9つの地場産業の産地とその產品は、県外や国外へも事業を拡大し、今も滋賀の経済を支えています。

地場産業の定義

滋賀県では、近江の地場産業および近江の地場產品で培われた優れた技術や技能を活用して時代の変化に適合していくために新たな取組を積極的に推進し、地域経済および地域社会の発展に寄与することを目的として「近江の地場産業および近江の地場產品の振興に関する条例」を平成28年3月に施行しています。

条例の第2条において、歴史、風土その他の地域の特性、経営資源等に基づき県内の地域に密着した工業に属する中小企業に係る企業群であって、知事が定める9つの産地を「近江の地場産業」として定義しています。



■ 県内総生産に占める第2次産業の割合

1位：滋賀県(48.7%)

2位：三重県(45.3%)

3位：栃木県(44.3%)

※全国平均27.0%

【「令和3年度県民経済計算」内閣府】



■ 県内総生産に占める製造業の割合

1位：滋賀県(44.0%)

2位：三重県(40.3%)

3位：栃木県(39.6%)

※全国平均 21.4%

【「令和3年度県民経済計算」内閣府】



産業を知ろう

地場産業の振興発展に向けて

滋賀県及び関連機関では条例に基づきながら、県民の近江の地場産業および近江の地場産品に対する誇りと愛着を基盤として、地場産業の振興発展を通じた滋賀県全体のブランド強化に取り組んでいます。各地場産業産地では、技術・技能の承継、新たな技術開発、新市場開拓、県内外や海外への販路拡大、後継者育成等に取り組まれており、行政等においても各地場産業産地が活性化し、地域産業の核となれるよう継続的な支援を行っています。

地場産業を応援しよう

滋賀応援寄附(ふるさと納税)の寄附メニューの一つとして、「近江の地場産業と伝統的工芸品を応援しよう」を設けています。皆さまからのご寄附は、地域に根付いた地場産業・伝統的工芸品をこれからも守り、発展、次世代に残すため、展示・販売・体験といった魅力発信イベントの開催や新商品開発、後継者育成などに活用します。皆さまのご寄附お待ちしております。

詳細につきましては、右記URLのホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kengai/kifu/337006.html>



■出荷額が 全国1位の製造品

- ・プレスフェルト生地
(ニードルを含む)、不織布(乾式)
- ・医薬品製剤(医薬部外品製剤を含む)
- ・試薬(診断用試薬を除く)
- ・はん用内燃機関の部分品・取付具・附属品
- ・はかりの部分品・取付具・附属品 など

【「2023年経済構造実態調査」総務省・経済産業省】

■出荷額が 全国2位の製造品

- ・麻織物
- ・他に分類されない繊維製品
(ニット製を含む)
- ・陶磁器製台所・調理用品
- ・衛生陶器(附属品を含む) など

【「2023年経済構造実態調査」総務省・経済産業省】

■出荷額が 全国3位の製造品

- ・陶磁器製置物
- ・空調・住宅関連機器の部分品・
取付具・附属品 など

【「2023年経済構造実態調査」総務省・経済産業省】



地場産業産地 DATA

※令和4年(2022年)時点集計

長浜縮緬



238
百万円



10
社



87
人

※一反あたり2万円で計算

彦根バルブ



28,667
百万円



31
社



1,249
人

彦根仏壇



500
百万円



25
社



121
人

彦根ファンデーション



2,500
百万円



12
社



130
人

湖東麻織物



7,603
百万円



25
社



461
人

甲賀・日野製薬



79,199
百万円



15
社



1,416
人

信楽陶器



3,167
百万円



66
社



431
人

高島綿織物



6,693
百万円



27
社



441
人

高島扇骨



250
百万円



19
社



20
人

【「令和5年度版 滋賀県の商工業」滋賀県】



土と炎が「火色(緋色)」「焦げ」などの色合いを生み出す



現代の暮らしにマッチするコーヒーポットなども製造

しがらきとうき 信楽陶器

「信楽陶器(信楽焼)」は鎌倉時代中期が起源といわれ、生産地である信楽は“陶器の町”として全国的に知られています。信楽焼の命である「土」と「炎」、そして「人」の技を継承しながら進化を続けています。



つくり手の技と感性が信楽焼の進化を支える



海鼠釉で統一した「信楽坪庭」を提案

信楽焼に用いられる古琵琶湖層の土は、高い耐火性と粗い土質が特徴。この土によって独特の野趣あふれる温かな表情が生み出され、大物・肉厚のやきものの製造を可能としています。茶陶や茶壺からはじまり、商業の発達に伴って火鉢の一大生産地として発展。近年は傘立てや食器、置物など時代の変化に応じて多様な製品が生産され、昭和50年9月には国の伝統的工芸品に指定されています。組合では、原料の供給などによる作家・製造業者の生産活動や製品の販路開拓を支援。また、海鼠釉の青を生かしたエクステリア製品「信楽坪庭」をはじめ、多様なかたちでのブランド展開も推進しています。

信楽陶器工業協同組合

甲賀市信楽町江田985

☎ 0748-82-0831

<https://www.593touki.jp>



信楽陶器卸商業協同組合

甲賀市信楽町長野149

☎ 0748-82-0039

<https://shigaraki.shiga.jp>





甲賀・日野で製造される現代のニーズに対応した多彩な医薬品類



滋賀で生まれ、古くから親しまれている伝承薬

こうかひのせいやく 甲賀・日野製薬

滋賀県は薬草栽培に適した気候風土に恵まれ、県最高峰の伊吹山は古来より薬草の一大産地でした。製薬会社が次々と創業し、現在では伝統ある配置薬をはじめ医療用・一般用医薬品の製造を行っています。



最新の設備と技術で高品質な医薬品を製造



滋賀の薬業の歴史も学べる「くすり学習館」

甲賀の地には甲賀流忍術が伝わっており、忍術の極意書には忍者たちが薬草を育て、独自で加工しさまざまな薬を生み出していたことが記されています。忍者はそれらを持ち歩き、さらに修験者による薬の配布や宿場町等で販売された街道売薬、全国を廻商する近江商人などにより、滋賀の薬は、全国に広まりました。やがて滋賀は甲賀・日野を中心に、富山・奈良と並ぶ三大配置薬生産県として発展。今日では薬機法に基づく近代的な設備のもと、科学の粋を結集した企業が多様な医薬品を製造しています。2010年には甲賀市が「くすり学習館」をオープンし、展示や体験を通して人と薬の関わりを学べる場を提供しています。

滋賀県製薬工業協同組合

甲賀市甲賀町大原市場700-2

☎ 0748-88-3105

<https://sigaseiyaku.jp>





発色が美しく、涼感に優れた近江の麻



「近江上布伝統産業会館」では近江上布の伝統技術を見学・体験できる

ことうあさおりもの 湖東麻織物

湖東地域は室町時代より麻織物の産地として知られ、江戸時代以降は良質の麻織物の生産地として発展。現在は600年続く伝統技法を継承しつつ、時代の変化に応じた上質の麻織物を発信し続けています。



近江の麻に滋賀ならではの絵柄をあしらったハンカチ



「近江上布」の紺と生平

湖東の麻織物は、鈴鹿山系からの豊かな湧き水と湿潤な気候によって育まれ、高度な技術によって発展してきました。伝統ある産地を支えているのが、国の伝統的工芸品に指定されている「近江上布」と地域ブランド「近江の麻」「近江ちぢみ」です。近江の麻・近江ちぢみが持つ発色の美しさや涼やかな肌触りを生かして、新製品の開発を推進。「産地ショップ麻香」^{あさがお}では販売を、「近江上布伝統産業会館」では販売をはじめ、近江上布などの製造や体験を行っています。伝統に現代の感性やデザイン性を取り込み、さらなる質の向上と新たな価値の創出を図っています。

湖東纖維工業協同組合

東近江市垣見町760

0748-42-0398

<https://www.kotosen.com>



滋賀県麻織物工業協同組合

(近江上布伝統産業会館)

愛知郡愛荘町愛知川32-2

0749-42-3246

<https://omi-jofu.com>





産業や暮らしに欠かせない多種多様なバルブ



用途や目的に応じて素材・形状・サイズもさまざま

ひこね 彦根バルブ

彦根市を中心に、バルブを製造する27社前後のブランドメーカーとそれを支える70～80社の関連企業が集結。日本屈指の規模を誇るバルブ産地では、あらゆるニーズに応える生産体制が確立されています。



製造現場を支える熟練したスタッフ



あらゆるニーズに対応する生産体制

明治20年、門野留吉が蒸気用カランを手がけたのが彦根のバルブ業界の始まりと言われています。彼のもとで技術を育んだ職人が、次々と独立を果たしてバルブ産地を形成してきました。現在は上下水道用、産業用、船用向けを主力に年間の生産高規模は280億円を超え、あらゆるバルブニーズに対応できる生産体制を確立。国際化にも対応し、多くのメーカーが素材や部品の海外調達を行い、マレーシア、中国、フィリピンなどに工場進出しています。また、人材確保・リクルート活動を推進するため、バルブ製造工程のVR動画制作や小中高・大学への出前講座等に取り組んでいます。

滋賀バルブ協同組合

彦根市中央町3-8

☎ 0749-22-4873

<https://www.shiga-vl.jp>





国の伝統工芸品にも指定されている「彦根仏壇」



江戸時代より頑なに守り続けてきた伝統の技

ひこね ぶつだん 彦根仏壇

「彦根仏壇」は江戸時代中期が起源とされています。それまで武具・武器の製作に携わってきた塗師、指物師、鎧金具師などが“平和産業”として仏壇製造に転換したのが始まりといわれています。



「源氏山」を実物1／4のミニチュアで再現



伝統技術で再現された「伝匠 彦根甲冑」

彦根仏壇は檜、杉、姫小松、欅を素材とし、「工部七職」と呼ばれる七部門の専門職によって伝統の手作業で製造されています。仏壇の前面の木目を浮き出させる“木目出し塗り”、“金箔のつや消押し”などが彦根仏壇の特徴です。各職の技を生かし、井伊家所用と伝えられる朱漆塗の『伝匠 彦根甲冑』を可能な限り忠実に再現。また、県最大規模の曳山祭り・大津祭の中の1基「源氏山」を職人たちの手によってミニチュアで製作し、最大限に再現しました。これらの伝統技術を後世に残すべく、仏壇だけでなく多方面に亘って視野を広げ、後継者の育成・確保に努めています。

彦根仏壇事業協同組合

彦根市中央町3-8

☎ 0749-24-4022

<http://hikone-butsudan.net>





新ブランド「cuconé(キュコネ)」は海外でも好評



ブラジャーをはじめガードルやボディースーツなども製造

ひこね 彦根ファンデーション

戦前から足袋製造を多く担っていた彦根市。その高い縫製技術を活かし、戦後は女性の下着の生産地として発展してきました。その可能性をより広げるべく、新たな挑戦も行なっています。



技術力を活かした「cuconé」の商品



足袋製造で培われた技術を女性下着に

ファンデーションの美しさを最大限に活かすのが「縫製」の技術。例えばブラジャーには約30の工程があり、その縫製には経験で培われた高い技術力が求められます。彦根ファンデーションでは、確かな縫製技術と多品種少ロットの生産が可能という利点を活用。多様化するニーズに応えるべく、新たなブランドの構築と市場拡大に取り組んでいます。パリの国際ランジェリー展ではロリータファッションを取り入れた新ブランド「cuconé(キュコネ)」を発表し、フランスを中心に販売展開。性的少数者に向けて、心と体の違和感を軽減する下着を開発するなど、多様性に富んだものづくりに挑戦しています。

ひこね繊維協同組合

彦根市大東町2-41 土川昭ビル2F

☎0749-22-4769

<https://www.hikone-seni.jp>





生地表面の「シボ」が特徴



浜ちりめん「変り一越(かわりひとこし)」の生地を用いた訪問着

ながはまちりめん 長浜縮緬

「長浜縮緬(浜ちりめん)」は生糸を100%使用した絹織物で、300年近くの歴史を有しています。伝統に培われた高度な技によって製造される浜ちりめんは和装染呉服用生地の最高峰と称され、日本全国に出荷されています。



「シボ」を生み出す八丁撚糸工程



古来より長浜は上質生糸の産地として知られ、織物に適した風土と彦根藩の保護のもとで、今日の浜ちりめんの礎を築いてきました。浜ちりめんは「シボ」と呼ばれる表面の凹凸模様が特徴のひとつで、美しい光沢やなめらかな肌ざわり、優れた染色性に高い評価を受けています。その多くは無地ちりめんとして出荷され、京友禅や加賀友禅などの高級着物として仕上げられます。近年は浜ちりめんの新たな可能性を広げるため、和装以外の分野でも需要拡大を図れるようウォッシャブルシルク（ヤサシルク）の技術を開発するなど、浜ちりめん絹生地の普及に向けてさまざまな取り組みを行っています。

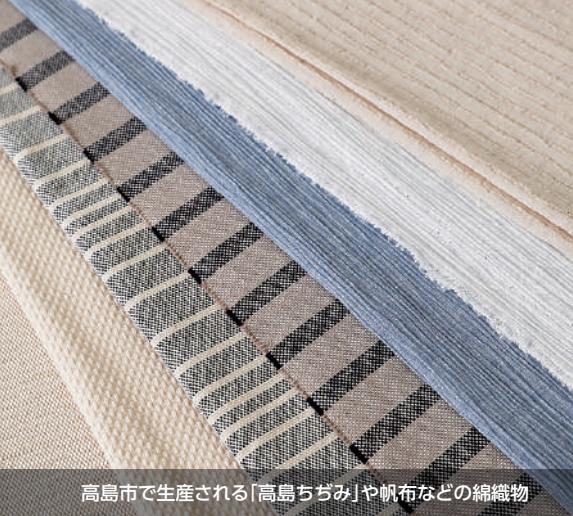
浜縮緬工業協同組合

長浜市祇園町871

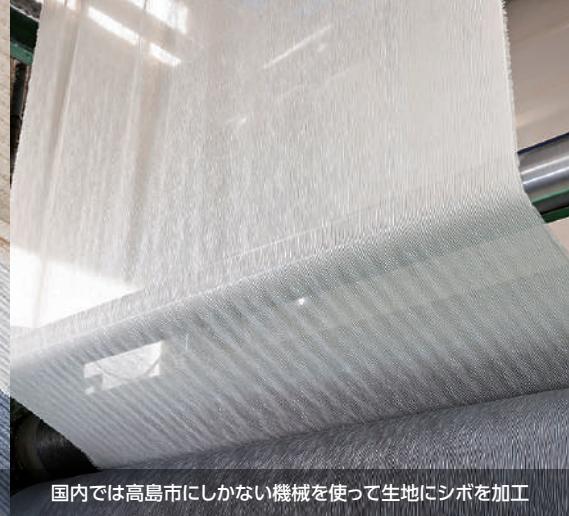
☎ 0749-62-4011

<https://hamachirimen.jp>





高島市で生産される「高島ちぢみ」や帆布などの綿織物



国内では高島市にしかない機械を使って生地にシボを加工

たかしまめんおりもの 高島綿織物

「高島綿織物」は江戸時代が起源とされ、確かな技術の歴史と恵まれた風土に育まれ発展してきました。その「伝統」と「技」は衣料や産業用資材に生かされ、たゆまぬ技術革新により進化を続けています。



「高島飄布」のバッグ、衣料品など



「高島ちぢみ」のロゴマークも一新

衣料用織物では、独特の風合いを持つ「高島ちぢみ」が古くから知られています。表面の“シボ（凹凸）”がサラリとした涼感を生み出し、その心地よい肌触りは高温多湿の日本の夏に最適な肌着として親しまれてきました。2019年にはリブランディングを図り、高島ちぢみのイメージを刷新。新たなニーズや市場の拡大に取り組んでいます。

産業用資材としては、タイヤコード、消防ホース、テントシートといった幅広い分野に綿帆布・合織帆布などを供給。帆布を活用したバッグやファッショントートを「高島飄布」たかしまはんぶとしてブランド化し、国内外から高い評価を得ています。

高島織物工業協同組合

高島市新旭町旭714-5

☎ 0740-25-3551

<http://www.takashima-orkumi.shiga.jp>



高島晒協業組合

高島市新旭町旭1411

☎ 0740-25-3515

<https://takashimasarashi.com/>





高島扇骨の多くは京都で地紙を貼り「京扇子」として全国に流通



大津絵や近江八景などの絵柄を貼ったオリジナル扇子も製造

たかしませんこつ 高島扇骨

扇骨とは扇の土台となる“骨”的部分を指し、高島は全国シェアの9割以上を占める国産扇骨の産地です。美しさと機能性を兼ね備えた「高島扇骨」は、夏扇子や舞扇など多種多様な扇子に用いられています。



熟練の技を要する繊細な手仕事



伝統技術を活用したしおり

高島扇骨は江戸時代、高島市内を流れる安曇川に植えられた竹を使い、冬の農閑期の仕事として始められたと伝えられています。扇骨は両外側の2枚を「親骨」、内側を「仲骨」といい、34以上もの工程を職人たちの分業体制によって製造されています。竹を切る・削る・磨くといった熟練の技を要し、その扇骨を用いた扇子はほどよく手になじみ、竹がしなって優しい風を生み出します。近年は扇骨だけではなく、滋賀ならではの絵柄を貼ったオリジナル扇子の製品化も推進。伝統の技術をしおりやランプシェードなどにも活用し、技の継承や後継者の育成に取り組んでいます。

滋賀県扇子工業協同組合

高島市安曇川町田中89

☎ 0740-32-1580

発行・編集



〒520-0806 滋賀県大津市打出浜2番1号 コラボしが21 5階
TEL.077-511-1430

令和6年度地場産業組合等指導支援事業